

国連、パレスチナの承認を可決 - イスラエルは何も残さないようにする

国連総会は再びほぼ満場一致の声で響き合いました。2025年9月、諸国が次々と手を挙げ、2国家解決を求め、パレスチナに国連の完全な加盟資格を与えることを勧告する**ニューヨーク宣言**を支持しました。議場は拍手で沸き返りました。その象徴性は重厚でした。数十年にわたる収奪と失敗に終わった和平プロセスを経て、世界はついにパレスチナが主権国家として存在する権利を認めたようでした。

しかし、ニューヨークで決議のインクが乾く中、ガザ市には火の雨が降り注ぎました。イスラエルの承認に対する答えは壊滅でした。

紙上の承認、粉碎された現実

その投票は歴史的でした。140カ国以上が支持しました。イスラエル、米国、そして彼らのいつもの衛星国だけが反対する勇気を持ちました。パレスチナ人にとって、それは長年遅れていた承認の瞬間でした。はい、あなたたちは存在し、はい、あなたたちは自分たちの国家を持つに値します。

しかし、紙上の承認は、その国家の人々、土地、機関がリアルタイムで抹消されているならほとんど意味をなしません。ガザは単に包囲されているだけでなく、体系的に消し去られています。街全体が消滅しました。病院は煙を上げる廃墟です。大学、学校、モスク、教会が平らにされました。電力、水道、衛生設備が破壊されました。爆弾を生き延びた子どもたちを飢饉が襲っています。ガザ地区はもはや社会に似ていません。それは黙示録の後のような光景です。

イスラエルの戦略はこれ以上明確ではありません。外交の場でパレスチナを否定できないなら、現場で否定するのです。

ガザ：ジェノサイドの青写真

2023年10月以来、ガザは現代史上で最も破壊的な軍事キャンペーンの一つを耐え抜いています。この狭い土地に投下された爆薬の総量は比較の域を超えています。第二次世界大戦中の多くのヨーロッパの都市が数年間で受けた量よりも多いのです。しかし、ワルシャワやロンドンとは異なり、ガザの人々には逃げる場所がありません。すべての国境が封鎖されています。それは上から叩き潰される檻です。

公式の死者数 - 数万人が確認されています - はすでに遺体安置所や墓地の収容能力を超えています。しかし、実際の数をはるかに多いことは誰もが知っています。掘り起こされていない瓦礫の下で家族全員が消えます。乳児は生きたまま登録される前に飢えて死にます。薬がなくなっ

たキャンプを病気で席卷します。これは爆弾、飢餓、渇き、病気といったあらゆる手段による絶滅です。

ヨルダン川西岸：手錠と目隠し

ガザが粉碎される一方で、ヨルダン川西岸は窒息させられています。トゥルカレム、ジェニン、ヘブロンなどの都市を一斉に逮捕キャンペーンが席卷しています。数百人が一度に集められ、手錠をかけられ、目隠しをされ、拷問、レイプ、飢餓が日常的な軍事刑務所に連行されます。兵士に護衛され、力を得た入植者の民兵がパレスチナの家族を家から追い出します。村は破壊されます。農地は盗まれます。新たな入植地が占領された土壤に深く突き刺さる歯のように立ち上がります。

これは「安全保障」ではありません。これは計画的、意図的、無慈悲な民族浄化です。将来の「国家」が切り刻まれた死体になるように、パレスチナ社会を計画的に破壊するものです。

タイミングがメッセージ

世界がパレスチナの承認に近づくたびに、イスラエルは破壊キャンペーンをエスカレートさせます。2025年9月の投票も例外ではありませんでした。ニューヨークで外交官が決議を拍手で迎える中、ガザ市にはさらに激しい爆弾が降り注ぎました。指導者が「2つの国家が並存する」と語る中、ヨルダン川西岸の兵士たちは何百人ものパレスチナ人男性を縛り上げ、消し去りました。メッセージは明白でした。決議は何も変えず、イスラエルが暴力で現実を決めるということです。

世界に逆らうならず者国家

イスラエルは国際法を無視するだけでなく、それを嘲笑しています。国際司法裁判所の判決を軽視し、国連の決議を破り捨てます。西側の後ろ盾が後押しする中、処罰されない自信を持って行動します。これはルールを超え、誰にも責任を負わないならず者国家の教科書的定義です。

そして、なぜそうしないのでしょうか？何十年もの間、非難は結果を伴わずにきました。「深刻な懸念」や「深い遺憾」が、いわゆる国際社会が集められた唯一の武器でした。イスラエルは、誰も止めないので完全に免責で行動できることを学びました。

承認だけでは不十分

最新の国連総会決議は外交的ジェスチャーですが、ジェスチャーはジェノサイドを止めません。国境を越えることはありません。飢えた子供たちを養うことはありません。爆撃された病院を再建することはありません。力で裏付けられなければ、決議は灰の上に漂う言葉に過ぎません。

ガザの破壊とヨルダン川西岸の民族浄化を止めることに世界が本気なら、空虚な言葉の時間はとうに過ぎました。総会は**決議377 - 「平和のための結集」**に基づいて行動する必要があります。安全保障理事会が麻痺しているとき、総会は軍事介入を含む集団的措置を推奨する権限を持っています。これは任意ではありません。私たちが目撃していることを止めるために設計されたまさにそのメカニズムです。

国連の最終試験

イスラエルが暴虐を続ける中、国連が象徴的な投票に満足するなら、ファシズムとホロコーストに直面した国際連盟と同じくらい無力であることを証明します。別のジェノサイドが、このような犯罪を防ぐために設立された機関の監視下で繰り広げられるでしょう。

選択はこれ以上明確ではありません。国連がパレスチナの絶滅を止めるために介入するか、あるいは自らを無意味なものにします。承認は、承認された者が絶滅させられれば何の意味もありません。ニューヨークでの投票は歴史的でしたが、歴史はジェスチャーを覚えていません。世界が行動したか、あるいは背を向けたかを覚えているでしょう。

参考文献

1. **国連総会 (2025)。2国家解決に関するニューヨーク宣言。** 国連総会投票、2025年9月12日。
2. **国連総会 (2024)。** 決議 ES-10/23: **国連におけるパレスチナ国家の地位。** 2024年5月10日採択。
3. **国際司法裁判所 (2024–2025)。** ガザ地区におけるジェノサイド犯罪の防止及び処罰に関する条約の適用（南アフリカ対イスラエル）。暫定措置の命令、2024年1月26日。以降の命令は2024–2025年にわたる。
4. **The Lancet (2024)。** ガザでの死者数の計算：困難だが不可欠。2024年7月までに186,000人以上の総死者数（直接＋間接）を推定する分析。
5. **国連人権高等弁務官事務所 (OHCHR)。** 特別報告者による声明（2023年11月以降）、ガザでのジェノサイドリスクを警告。
6. **ヒューマン・ライツ・ウォッチ (2024–2025)。** パレスチナ人被拘禁者に対する拷問、飢餓、性的虐待に関する報告、医療従事者を含む。
7. **+972 Magazine & Local Call (2024)。** ガザで殺害された者の約83%が民間人であることを示すイスラエル軍情報データベースに関する報道。
8. **アルジャジーラ (2025)。** 国連総会、イスラエルとパレスチナのための2国家解決を支持、2025年9月12日。
9. **ロイター (2025)。** イスラエルのガザ攻撃の死者数：保健省および独立推定、2025年3月。
10. **ガーディアン (2025)。** 元イスラエル参謀総長、20万人以上のパレスチナ人犠牲者（死亡または負傷）を確認、2025年9月12日。
11. **UN OCHA (2023–2025)。** 占領パレスチナ地域：人道的影響状況報告、破壊、避難、包囲状況を記録。